

Press Release



マリー・
アントワネット・
スタイル



V&A

Marie
Antoinette
Style

Created by the V&A
-touring the world



マリー・アントワネット・スタイル

はじめに

2026年8月より、横浜美術館において「マリー・アントワネット・スタイル」展を開催します。

歴史上もっともファッショナブルな王妃、マリー・アントワネット（1755-1793）。時代の「ファッション・アイコン」となった王妃の装いやインテリアは、18世紀から現代まで、ファッションやデザイン、映画などに広く影響を与えてきました。本展は、マリー・アントワネット時代のドレスや宝飾、家具などを手がかりに、あらゆる点で新しい様式^{スタイル}をうちたてていった王妃の革新性と、その人物像に迫ります。さらに、王妃が形づくった「スタイル」の源泉が、いかに時代を超えて人びとを魅了し、今日のクリエイターたちにも示唆を与え続けているかについて紹介します。

本展はロンドンのヴィクトリア&アルバート博物館が企画し、2026年3月まで同館で開催されました。英国の研究者による最新の調査に基づきマリー・アントワネットを再検証した試みとして、国内外で多大な注目を集めました。国際巡回の最初の開催地となる横浜では、映像やサウンドスケープなどの演出を踏襲しつつ、一部内容を再編、さらに日本独自の出品作を加えた約200点で展示を構成します。18世紀フランス宮廷の最高級の手仕事から、現代の名だたるメゾンやデザイナーの創造にまで引き継がれたマリー・アントワネットのスピリットをお楽しみいただき、新しい王妃像を見出していただけましたら幸いです。

ヴィクトリア&アルバート博物館
Victoria and Albert Museum

英国の国立博物館のひとつで、1852年に産業博物館として開館しました。ヴィクトリア女王と夫アルバート公によって基礎が築かれたことから、1899年に現在の名称に。幅広い時代と分野にわたる280万点以上の収蔵品を通して、5,000年を超える人類の創造の歴史をふり返り、新しい物語を発信。とりわけデザイン・装飾美術のコレクションは世界的に名高く、同時代のクリエイターたちにインスピレーションを与えています。



© Victoria and Albert Museum, London

メッセージ

マリー・アントワネットが日本の芸術を愛好していたことはよく知られています。このフランス王妃は、日本の美術や意匠への確かな見識と多大な関心を、母であるオーストリアの女帝マリア・テレジアから受け継ぎました。日本の香の薫りの漂う室内に、フランスの収集家を魅了した細かい貫入のある灰白地の日本の古陶を飾り、書齋では日本の歴史に関する書物をひもときました。そして何より、漆に対する愛着は並ならぬものでした。骨を漆で仕上げた扇子や、蒔絵の屏風式衝立や箆筒、なかでもひとときわ誇らしげに飾られていたのが、ヨーロッパ随一とされる小箱のコレクションでした。

後世におけるマリー・アントワネットの様式のリバイバルや展開において、日本が重要な役割を果たしたのも自然な流れといえるでしょう。日本の木版画がアール・デコ黄金期のマリー・アントワネットの挿絵の美学を支え、マンガやアニメ、「カワイイ」文化、そして日本のファッションに、王妃はインスピレーションを与え続けているのです。

このたび、横浜美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網との協働により、「マリー・アントワネット・スタイル」展を日本で開催できることを大変うれしく思います。ヴィクトリア&アルバート博物館が誇る貴重な衣裳やテキスタイル、装飾芸術などの卓越したコレクションを通して、近代が明け初める時代のスタイル・アイコンにして、歴史上もっともファッションナブルな王妃、マリー・アントワネットの影響が、大いなる遺産を残したことをみなさまにご覧いただきたいと思ひます。

トリストラム・ハント (Sir)
ヴィクトリア&アルバート博物館 館長



歴史上もっともファッションナブルで、人びとの耳目を集め、そして大きな影響力をもった王妃、マリー・アントワネット。その名は、豪華で洗練された品々や室内装飾を連想させます。オーストリア皇女として生まれ、のちにフランス王妃となった彼女は、同時代のヨーロッパの趣味やファッションの動向に多大な影響を与えました。彼女が作り上げた独自のスタイルは、今日では普遍的な魅力と広がりを見せています。とりわけ日本ではその影響が強く感じられ、多くのイラストレーターやデザイナーが「マリー・アントワネット・スタイル」に共鳴し、その美の展開に大きく寄与してきました。横浜美術館で開催される本展は、彼女のつくりあげた「スタイル」と、その人物像に光を当てます。王妃ゆかりの品々とともに、彼女の遺産に想を得て生まれた、美しく繊細な作品の数々をご紹介します。

サラ・グラント (Dr.)
ヴィクトリア&アルバート博物館 シニア・キュレーター／本展企画者



*展示内容は変更になる場合があります。

1

時代を超えて 人びとを魅了し続ける 王妃の「スタイル」を紹介

ドレス、ジュエリー、家具調度品、絵画や版画、写真など、約200点で構成。18世紀後半の歴史的なファッションから2025年のオートクチュールまで、250年にわたる展開をたどります。



‘アントワネット’

映画『マリー・アントワネット』(ソフィア・ Coppola監督、2006年)の
ための靴

マノロ・ブラニク (作) 2005年

マノロ ブラニク・アーカイヴ蔵

© Manolo Blahnik International Limited

2

ヴィクトリア&アルバート博物館 (V&A)が企画した世界巡回展 日本で唯一の開催

贅沢なだけじゃない！ ロンドンにある世界有数の博物館V&Aが、史上もっともファッションブルなフランスの王妃マリー・アントワネットを再評価。国際的にも注目を集めている画期的な展覧会です。

マリー・アントワネットの肘かけ椅子(4点組の1点)

ジャン=バティスト=クロード・スネ(作) 1788年

ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

© Victoria and Albert Museum, London



Antoinette Style

3

歴史的、文学的にも 貴重な品が集結 日本初公開作品も！

「首飾り事件」のネックレスの一部と伝わるダイヤモンドなど、マリー・アントワネット旧蔵品やゆかりの品(10点あまり)をはじめ、小説、演劇、映画などに描かれてきた18世紀当時の品々も多数展示。王妃の処刑に用いられたとされるギロチンのほか、ヨーロッパの歴史を転換させたフランス革命の空気も小コーナーで紹介します。



通称「サザーランド・ダイヤモンド」

1780年代にネックレスに加工
ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
© Victoria and Albert Museum, London

4

国内の関連作品を加えた 日本オリジナルの展示

アジア巡回のためにロンドンでの展示から出品内容を再編成。さらに、国内で所蔵されている優品約20点も展示します。

皇后ウジェニー

ビエール=ポール・アモン(画) 1850年代
東京富士美術館蔵
© 東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom



1



マリー・アントワネット： スタイルの源泉 1770-1793

オーストリア皇女マリー・アントワネット (1755-1793) は、1770年春、14歳の時に王太子妃としてフランスに嫁ぎました。以来、宮廷に新たな視点をもたらしながら、ルイ16世下フランスにおける高級産業、とりわけファッションと織物産業の発展に、多大な影響を与えました。

当時のフランスは、植民地と奴隷制を基盤とした国際的なプレゼンスに加え、文化においても中心的な役割を担っていました。そうしたなか、アントワネットは、堅苦しい宮廷の慣習に挑み、あらゆる面でみずからの意向を形にしていきました。衣裳のみならずインテリアから音楽、ライフスタイルまで、よりシンプルで洗練された王妃の趣向は、またたく間に国内外で流行します。一方で、そのスタイルは斬新ゆえに取り沙汰され、民衆には想像もつかないほどの贅沢の象徴と受けとめられるようになっていきました。

革命の気運が高まるなか、アントワネットは次第に反体制派の標的となり、ギロチンへと導かれていくのです。



コートドレスのマリー・アントワネット

フランソワ・ユベール・ドルーエ(画) 1773年 油彩、カンヴァス 63.5 × 52.0 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Marie Antoinette in court dress, by François-Hubert Drouais
 © Victoria and Albert Museum, London

正式な宮廷衣裳を身にまとう17歳頃のマリー・アントワネット。この肖像画は、注文主である当時の国王ルイ15世に対して、王太子妃が将来王妃としてフランスを治めるのにふさわしい品格を備えていることを示すために制作されました。ここに描かれているダイヤモンドのチョーカーはおそらくマリー・アントワネットがウィーンから携えてきたものです。さりやかな大きなボウ(リボン)と胸もとに下がるモチーフの組み合わせが目を引きま



扇 マリー・アントワネットの婚礼の寓意

フランス製 1770-80年代 扇面:羊皮紙にグワッシュ、仲骨・親骨:べっ甲に真珠母貝、箔 27.9 × 51.0 cm (開いた状態)
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Fan with allegory of Marie Antoinette's wedding (made in France)
 © Victoria and Albert Museum, London

見つめ合いながら歩む男女と、その先で二人の肖像画を支える神話の神々。虹や色鮮やかな雲、バラを飾り付けるアモル達が祝祭の雰囲気醸し出しています。これは、当時まだ王太子だったルイ16世とマリー・アントワネットの婚姻を記念して制作されたと考えられている扇です。扇は18世紀の宮廷文化では欠かせないアクセサリで、結婚披露宴の情景は人気の主題でした。扇面だけでなく、骨に施された繊細な装飾も必見です。



ブレスレットの留め具

フランス製 1770年頃 金、ダイヤモンド、青の鉛ガラス(人工宝石)
 各 H. 3.9 × 3.0 × 1.4 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Pair of bracelet clasps (made in France)
 © Victoria and Albert Museum, London

マリー・アントワネット輿入れの際、ルイ15世が贈ったブレスレットの留め具は、青いエナメルを背景に、モノグラム「MA」がダイヤモンドで表され、この作品と似たものだったと考えられています。当時ブレスレットは一对を両手首につけたため留め具が2つでセットとなっています。この作品ではそれぞれ異なるモチーフがあしらわれ、片方にはモノグラムが、もう片方には愛と平和の象徴である鳩や婚姻の神ヒュメナイオスを示す松明が表されています。



(背面)

ローブ・ア・ラ・フランセーズ (フランス風ドレス)

フランス製 1760年代(1770年代に加工) 絹、光沢をつけた麻
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Robe à la française (made in France)
 © Victoria and Albert Museum, London

ローブ・ア・ラ・フランセーズは、18世紀のもっともフォーマルなドレスの形式。白いストライプの走る絹地に、つるバラと花束の連続模様が施されています。少しかすれたような、やさしい風合いの花柄は、織る前に経糸を束ねて絞り染めして(つまり模様を計算して糸を先染めして!)織り出されたもの。この高度な技術を要するシネ・シルク——日本の緋に相当します——も、マリー・アントワネットのお好みでした。



ローブ・ア・ラングレーズ (イギリス風ドレス)

製作地不詳 18世紀後半 絹
 共立女子大学博物館蔵
 Robe à l'anglaise (place of manufacture unknown)
 *展示期間:8月1日(土)~9月9日(水)

背中の身頃をボディにぴったり沿わせ、腰部できゅっと絞ってスカートの豊かな広がりにつなげるシルエット。ローブ・ア・ラングレーズの特徴です。トレーンのように優美な2本のボックスプリーツを背に引く「ア・ラ・フランセーズ」より動きやすく、日中に、かつ宮廷外で着用されました。マリー・アントワネットが王太子妃となった1770年代フランス貴族の、「イギリス好み」とドレスの簡素化への意識を反映した最新モードです。



‘ポーランド風’に着装されたローブ・ア・ラ・フランセーズ

フランスまたはイギリス製 1770年代 絹
 文化学園服飾博物館蔵
 Robe à la française worn ‘à la polonaise’ (made in France or UK)
 *展示期間:10月23日(金)~11月23日(月・祝)

18世紀後半、機能的な装いへの嗜好が強まるなかで、スカートの後ろをぐっと持ち上げるローブ・ア・ラ・ポロネーズ(ポーランド風ドレス)の着こなしが登場します。たくし上げた布をたっぷりドレープにまとめるところは、機能に留まらないお洒落ぶり。ダンスや戸外散策を愛したアントワネットはさぞ活用したことでしょう。このローブ・ア・ラ・フランセーズも、内側に取り付けたフックと紐で「ア・ラ・ポロネーズ」に変身しています。



ダイヤモンドのボウ形装飾(3点組)

ロシア製 1760年頃 銀、ダイヤモンド 最大のボウ H. 6.9 × 11.9 × 2.3 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Three diamond bow ornaments (made in Russia)
 © Victoria and Albert Museum, London

1700年代の宮廷において、ダイヤモンドをあしらったボウ(リボン)形のジュエリーはもっとも典型的なものでした。この3つのうち、一番大きなものは胸もとを飾るブローチで、より小ぶりで同じくらいの大きさの2つは肩にピンで留められたと考えられています。ボウ形の装飾はシルクでもつくられ、髪やガウンを飾ることもありました。18世紀の装いは、頭からつま先まで、質感の異なるボウで煌びやかに彩られていたのです。



フランス王妃マリー・アントワネットの胸像

(背面)

セーヴル磁器製作所、ルイ・シモン・ボワゾ(作) 1788年頃 軟質素焼磁器
 H. 40.7 × 26.5 × 24.0 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Portrait bust of Marie Antoinette, Queen of France, by Sèvres porcelain factory and Louis-Simon Boizot
 © Victoria and Albert Museum, London

30歳頃のマリー・アントワネットをかたどった胸像です。即位から10年ほど経ち、堂々とした王妃の風格が漂っています。一番の注目ポイントは後ろ姿。丁寧に結びあげられた王妃の髪が、シルク製と思われる柔らかなボウ(リボン)と真珠で飾られています。実際のアントワネットの髪は灰色がかった金と言われており、その色は「王妃の髪」と名付けられ、ガウンや乗馬用具などさまざまなものに用いられました。

フラワー・ガーデン

マティアス・ダーリー(作) 1777年刊行 エングレーヴィング 35.2 × 24.7 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 The Flower Garden, by Matthias Darly
 © Victoria and Albert Museum, London

結髪師レオナルド・オーティエとモード商のローズ・ベルタンが生み出した、高く盛られた髪型や華やかな頭飾りは、この時代の宮廷に特徴的な装いと言えるでしょう。奇抜な髪型が流行すると、風刺画家たちはその姿を大げさに描き出しました。この作品のテーマは「花園」です。熊手を持った庭師のいる庭園や、垂れ下がる花々で飾りたてられた「髪」は、女性の顔の数倍のスケールで描かれています。





マリー・アントワネットの肘かけ椅子(4点組の1点)
 ジャン=バティスト=クロード・スネ(作) 1788年
 木(クルミ)に着色、絹で刺繍した綿(近年の上張り) H. 97.5 × 63.5 × 63.0 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Marie Antoinette's armchair (from a set of four), by Jean-Baptiste-Claude Sené
 © Victoria and Albert Museum, London

マリー・アントワネットは30歳になる年に、王よりパリ郊外のサン=クルー城を贈られます。王妃主導の改修後、王家はそこで夏を過ごしました。この椅子は、もっとも私的な空間であった化粧室で王妃が使用したものです。小花柄や、白や紫の軽やかな色合い、背もたれの上にあるバラとギンバイカで円形に縁取られたモノグラム「MA」など、そこには当時の彼女が好んだスタイルの特徴が表れています。



皿 マリー・アントワネットの食器セット‘真珠とヤグルマギク’
 セーヴル磁器製作所(作) 1781年 軟質磁器、エナメル、金 3.0 × 24.2 × 24.2 cm
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
 Plate, from Marie Antoinette's 'pearls and cornflowers' service, by Sèvres porcelain factory
 © Victoria and Albert Museum, London

この平皿を含む食器セットは総数295点、24名用として作られました。これは、マリー・アントワネットが王立セーヴル磁器製作所に注文して作らせたもののなかで、最も数が多いセットでした。さらに、このセットには王妃の好み色が濃く反映していると言われていています。皿の中央と縁を飾るヤグルマギクはプチ・トリアノンの家具装飾にも用いられており、同じく縁に描かれた真珠はアントワネットが何よりも好んだモチーフでした。



マリー・アントワネットの真珠とダイヤモンドの3連ネックレス
 フランス製 18世紀後半 真珠、金、ダイヤモンド
 各連の長さ 38.5 cm, 41 cm, 43 cm
 ハイディ・ホルテン・コレクション、ウィーン
 Three-strand natural pearl and diamond necklace (made in France)
 Photo courtesy of Sotheby's

アントワネット旧蔵の天然パール119粒を連ねたネックレス。自身と愛する家族の運命が変転しつつあることを悟った王妃は、フランスからの脱出を画し、この真珠をふくむ高価な宝飾品を密かに故国に運ばせました。革命後にオーストリアに逃れた娘マリー=テレーズ=シャルロットに、そして彼女の係累、ブルボン=パルマ家に継承されたそれらの品々が、今日まで残存していたことが公になったのは2018年の秋。もちろん、日本初公開です。



楼閣山水蒔絵水注

日本製 江戸時代(17世紀末-18世紀初め) 漆、蒔絵、一对
各H. 27.2 × 20.5 × 12.5 cm
京都国立博物館蔵

Pair of ewers with landscapes with pavilions (made in Japan)

*展示期間:8月1日(土)~9月30日(木)

ダイヤモンドより漆を重宝した母マリア・テレジアの形見を含め、アントワネットは100点以上もの漆工品を有し、ヴェルサイユ宮殿のそこかしこに飾っていたといいます。豪壮な調度のなかで、しっとりした輝きを放つ小さな漆の器たち——そんな光景もまた、華奢で繊細なものを愛しむ「スタイル」の源泉に通じます。ポンパドゥール夫人の死後アントワネットの手に渡り、現在はルーヴル美術館に収まっている作品との類似が指摘される水注です。



乳房ボウル

セーヴル磁器製作所、ジャン=ジャック・ラグルネ(弟)、ルイ=シモン・ボワゾ(作)
1787年 ボウル:軟質磁器、脚台:硬質磁器 H.12.3 × 12.5 × 12.2 cm

国立陶磁博物館(セーヴル)蔵

Bol sein (breast bowl) or *Jatte téton*, by Sèvres porcelain factory, Jean-Jacques Lagrenée le Jeune and Louis-Simon Boizot

Sèvres, Musée national de Céramique / Origin: France, Acquired in 1970

© GrandPalaisRmn (Sèvres - Manufacture et musée nationaux) / Martine Beck-Coppola / distributed by AMF

パリ近郊ランブイエの乳製品加工所で牛乳を飲むために制作された、古代の乳房型の杯「マストス」を着想源とした器。脚台の装飾は、ゼウスが牝山羊アマルティアの乳で育てられたという神話に材をとりました。ここには当時流行した古代への憧憬や、乳製品の摂取を推奨する啓蒙思想が反映されています。アントワネットがフランス王家で初めて実践した母乳育児も啓蒙思想に基づくもので、その影響の大きさがうかがえます。

Manufactures nationales, Sèvres & Mobilier national
2, place de la Manufacture, 92310 SÈVRES, France www.sevresceramique.fr



通称「サザラランド・ダイヤモンド」

1780年代にネックレスに加工 金、銀、プラチナ、ダイヤモンド 長さ 35.8 cm

ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

The Sutherland Diamonds

© Victoria and Albert Museum, London

マリー・アントワネットの評判を失墜させた「首飾り事件」。元凶の首飾りは、騒動のさなか盗まれ、分解され、売却のためイギリスに渡りました。その一部と伝わるダイヤモンドが出展されます。インドのゴルコンダ産と思われる石は、最高級の透明度と輝きで、中央の一粒だけでも約15カラットあります。歴代のサザラランド公爵夫人に継承され、ヴィクトリア女王からジョージ6世の時代まで約100年にわたり、形を変えながら戴冠式の際に身につけられました。

2



マリー・アントワネット： 追憶と偶像化 1800-1940

マリー・アントワネットは、死後も人びとの記憶のなかに生き続けました。ナポレオン3世の後ウジェニー（1826-1920）を筆頭に、19世紀には王党派の支持者たちが彼女のスタイルを懐古します。スペインからフランスに嫁いだ皇后は、同じく外国から嫁いだアントワネットに心を寄せ、みずからのイメージづくりにおいても王妃を参照しました。

一方、ブルジョワたちは、家柄の正当性を主張すべく、アントワネット風の装いやインテリアをとり入れました。こうした気運は、王妃に関わる品々が各国で収集される一因ともなりました。アントワネットの装いは仮装舞踏会の人気のテーマとなり、ときに物語の主人公にも重ねられ、そのイメージは数々の出版物を通じて世界に広まります。20世紀初頭までに、アントワネットとその美意識は、ひとつの偶像として確立していきました。



皇后ウジェニー

ピエール・ポール・アモン(画) 1850年代 油彩、カンヴァス 132.0 × 100.0 cm

Portrait of Empress Eugénie, by Pierre-Paul Hamon

東京富士美術館蔵

©東京富士美術館イメージアーカイブ/DNPartcom

ナポレオン3世の皇后ウジェニーはスペイン出身で、同じく外国人でフランス王妃となったマリー・アントワネットに心酔していました。仮装舞踏会を催してアントワネットに扮するだけでなく、王妃の旧藏品などを集めた展覧会を主催するなど、19世紀にアントワネットへの関心を高める立役者となりました。自らも王妃と同じく宝石を愛し、スカートの後ろ側を膨らませるクリノリン・スタイルを流行らせた、ファッションリーダーと呼べる存在でした。



ガーランドスタイル・ストマッカー

ショーメ(作) 1906年頃 金、プラチナ、ダイヤモンド、サファイア
13.5 × 12.0 cm

Garland Style Stomacher, by Chaumet

個人蔵

Courtesy of Albion Art Jewellery Institute

ガーランドスタイルは、ボウに結んだリボン、花綱、透かし模様など、ルイ16世時代の装飾様式を取り込んだジュエリー。「ストマッカー」も昔日のドレスの胸当ての呼称で、着用する人の品格を示すアイテムとなりました。しなやかで精緻な加工が可能、しかも恒久的に輝きを失わないプラチナで18世紀のスタイルを再生させたのは、ショーメ。アントワネットのジュエラーのもとで修業した、マリ＝エティエンヌ・ニトに始まるメゾンです。



イヴニングドレス「ローブ・ド・スティール」

ジャンヌ・ランバン(作) 1922-23年頃 絹オーガンザ、絹の花かざり、パニエ
 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

Robe de style (evening gown), by Jeanne Lanvin

© Victoria and Albert Museum, London

1920年代から30年代に活躍したジャンヌ・ランバンは、懐古趣味ただよふ繊細でロマンチックな「ローブ・ド・スティール」(歴史的な様式に連なるドレスの意)を打ち出しました。上部はすっきりシンプルに、スカートはパニエでふんわりと仕上げたイヴニングドレスは、マリー・アントワネットの軽やかなシュミーズドレスと、18世紀の豪華な宮廷服の混成体のよう。絹製の花かざりのアクセントが、透明感のあるシルクの純白をさらに際立たせます。



目隠し鬼(流行年鑑『髪かざりと緑かざり』より)

ジョルジュ・バルビエ(画) 1924年(1925年刊行/メニアル、パリ) ポショワール
 (ステンシル)による手彩色の挿絵本 冊子:26.5 × 18.0 × 3.0 cm

ヴィクトリア&アルバート博物館蔵

Blind Man's Bluff from *Falbalas et Fanfreluches (Ruffles and Frills)* almanach, by
 George Barbier

© Victoria and Albert Museum, London / George Barbier

アール・デコ期を代表する挿絵画家ジョルジュ・バルビエは、時代考証をふまえつつ、1920年代の洗練された感性を通して、18世紀の服飾やインテリアを細部まで表現しました。彼の挿絵にはそれとわかるようにマリー・アントワネットやヴェルサイユにおける王妃ゆかりの地が取り入れられました。「目隠し鬼」を描いたこの作品では高く髪を結い上げ、羽やリボン、花の飾りをつけて、横に大きく広がる宮廷ドレスを着た人びとが描かれています。

3

永遠とわに新しく—— マリー・アントワネット・スタイル

華やかさと悲劇に象徴されるマリー・アントワネットのイメージは、いまなお人びとを魅了し続けています。この章では、王妃がつくりあげた「スタイル」にさまざまなかたちでインスピレーションを得た現代のクリエイターたちが手がけたファッション、デザイン、映画、音楽などを紹介します。

パステルカラーやリボン、王妃の好んだドレスのシルエットを採り入れたファッションは、洗練とともに、退廃や破壊、さらには「女性らしさ」への問いかけや多様性など、現代社会の課題にまで視点を広げています。また、映画やテレビでアントワネットの生涯が30本を超えて作品化されていることや、舞台やミュージック・ビデオへの引用は、彼女が時代を超えたミューズであり続けていることの証といえるでしょう。





ヴィクトリア&アルバート博物館(ロンドン)の展示風景

Installation view at the Victoria and Albert Museum

© Victoria and Albert Museum, London

左右はトワル・ド・ジュイのプリント地による、アンドレア・グロッシのアンサンブル(2019年ポリモーダ卒業制作)とヴィヴィアン・ウエストウッドのパニエドレス(1996年春夏コレクション)。中央、フリルのトレーンとティアードスカートが印象的なイヴニングドレスは、アーデムのコレクション(2022年春夏)。作品を高所に並べたロンドン展のスペクタクルな演出とは趣向を変えて、横浜ではデザインのディテールに迫れる展示を予定しています。



ヴィクトリア&アルバート博物館(ロンドン)の展示風景

Installation view at the Victoria and Albert Museum

© Victoria and Albert Museum, London

モスキーノは2020-21年秋冬コレクションで、マリー・アントワネット・スタイルを大胆に生まれ変わらせます。超ミニのパニエドレスとロングブーツ、パステルカラーの巨大ウィッグを着けたモデルたちがランウェイを闊歩。デザイナーのジェレミー・スコットは王妃にまつわる言葉を引いて、「CAKE! CAKE! CAKE! LET THEM EAT MOSCHINO!」と、写真右手の2点をふくむ「ケーキドレス」をインスタグラムに投稿しました。このドレス、なんとシリコン製。ケーキを着るのも楽じゃない?!



トワル・ド・ジュイのアンサンブル

(コレクション「デウスランド[神の国]へようこそ」)

アンドレア・グロッシ(作) 2019年 ダッチェスサテン

Toile de Jouy ensemble from the *Welcome to Deusland* collection, by Andrea Grossi

Photo: Courtesy Andrea Grossi

18世紀半ばに開発され、アントワネットはじめ全ヨーロッパを魅了したフランスのプリントコットン「トワル・ド・ジュイ」。その技術で描かれているのは、ゲーム、アニメ、マンガ大好き青年アンドレア・グロッシが創造するユートピア「デウスランド」のキャラクターたちです。優れたデザイナーは優れた問いを自身に投げかけ続けるもの——そう考えるグロッシは、ファッションの仕事に、現在を見つめ、未来への持続可能性を拓く力を見出しています。



ヴィクトリア&アルバート博物館(ロンドン)の展示風景

Installation view at the Victoria and Albert Museum

© Victoria and Albert Museum, London

ソフィア・ Coppola 脚本・監督、キルスティン・ダンスト主演の映画『マリー・アントワネット』。ピンヒールのパンプス、ポップミュージック、色とりどりのマカロンなど、18世紀の宮廷に「現代」を織り込んだ構成が話題になりました。第79回アカデミー賞でミレーナ・カノネロが衣裳デザイン賞を獲得、その栄えあるドレスも出展されます。左から‘ケーキを食べればいいじゃない’‘礼拝堂’‘庭園’のコスチューム。どんな場面か思い出せますか？



映画『マリー・アントワネット』(ソフィア・ Coppola 監督、2006年)より

Scene from *Marie Antoinette*, directed by Sofia Coppola, 2006

Photo: Courtesy of I WANT CANDY LLC. and Zoetrope Corp.



‘メルシー・アルトワ’

映画『マリー・アントワネット』(ソフィア・ Coppola 監督、2006年)のための靴

マノロ・ブラニク(作) 2005年 綿、ベルベットのリボン、ウール・シェニールの縁飾り、金属とクリスタルの装飾、革底 各H. 15.0 × 7.5 × 25.5 cm

マノロ ブラニク・アーカイヴ蔵

‘Mercy Artois’ (shoes designed for *Marie Antoinette*, 2006, directed by Sofia Coppola), by Manolo Blahnik

© Manolo Blahnik International Limited

アントワネットはつねにインスピレーションの源だと語るマノロ・ブラニク。Coppolaの映画の衣裳制作に際しては、現存する王妃の靴を確認、素材選択から細部装飾までこだわり抜き、すべて手ずから仕上げたとか。同時に、「アカデミックにならないように」というカノネロの言葉を忘れず、見事アントワネット・スタイルの新生を成し遂げます。オーストリアから遣わされた廷臣メルシー伯と、義弟アルトワ伯にちなむ名前も魅力的な一足です。

マリー・アントワネット・スタイル 関連略年譜

- 1755 11月2日 マリー・アントワネット、オーストリア=ハンガリー帝国の第15子(第11皇女)として生まれる。ドイツ語の名はマリア・アントーニア・ヨーゼファ・ヨハンナ。
- 1769 6月 ルイ15世が孫の王太子とアントワネットの結婚を正式に申し込む。
- 1770 5月16日 ヴェルサイユ宮殿で結婚式、フランス王太子妃に。
- 1774 5月 ルイ15世崩御。プチ・トリアノンの領地を譲り受ける。
- 1775 6月11日 ランス大聖堂でルイ16世の戴冠式、フランス王妃に。
- 1778 2月 ルイ16世が対英国政策としてアメリカ独立戦争に介入、仏米同盟条約調印。
- 4月頃 ローズ・ベルタンが宮廷で「モード大臣」の称号を得る。
- 12月 第1王女マリー・テレーズ・シャルロット出産。
- 1780 11月 母マリア・テレジア崩御、日本の漆器コレクションを継承。
- 1781 10月 第1王子ルイ・ジョゼフ出産(1789年死去)。
- 1785 2月 ルイ16世が王妃のためにサン=クルー城購入。
- 3月 第2王子ルイ・シャルル(のちのルイ17世、1795年死去)出産。
- 8月 「首飾り事件」発覚、ロアン枢機卿が鏡の間に逮捕される。
- 1786 7月 第2王女ソフィー出産(翌年死去)。
- 1787 6月 ルイ16世がランブイエに王妃のための乳製品加工所を造営。
- 1789 10月 フランス革命が勃発、一家でチュイルリー宮殿へ連行される。
- 1791 6月 一家でパリを脱出、ヴァレンヌで捕縛される。
- 1792 8月 一家でタンブル塔に幽閉される。
- 1793 1月 ルイ16世の処刑。



▲... p.6



▲... p.6



▲... p.9



▲... p.10

10月16日 革命裁判ののち処刑される。享年38。

- 1858 シャルル・フレデリック・ウォルト、パリにメゾン創設。
- 1867 ナポレオン3世の皇后ウジェニー、パリ万国博覧会に合わせてアントワネットの展覧会を主催(会場はプチ・トリアノン)。
- 1885 ジョゼフ・ショーメ、マリ＝エティエンヌ・ニトの宝飾店を継承、自身の名をメゾン名に。
- 1889 ジャンヌ・ランバン、パリに帽子店を創設。
- 1925 現代装飾芸術・産業芸術国際博覧会(通称アール・デコ博覧会)がパリで開催。
- 1932 シュテファン・ツヴァイク『マリー・アントワネット』刊行(1948年邦訳刊行)。
- 1938 ノーマ・シアラー主演の映画『マリー・アントワネット』公開(1966年日本公開)。
- 1972 池田理代子『ベルサイユのばら』連載開始。
- 1979-80 遠藤周作『王妃マリー・アントワネット』刊行。
- 1995 ヴィヴィアン・ウエストウッド、1996春夏コレクションでトワル・ド・ジュイを用いたドレスを発表。
- 2001 アントニア・フレイザー『マリー・アントワネット』刊行(2006年邦訳刊行)。
- 2006 ディオール、フランス革命をテーマにした2006春夏オートクチュールコレクションを発表。
キルスティン・ダンスト主演の映画『マリー・アントワネット』公開(2007年日本公開)。
- 2012 シャネル、ロココに想を得た2012-13クルーズコレクションをヴェルサイユで発表。
ミーダム・カーチョフ、2013春夏コレクションでボウ飾りをふんだんに用いたアンサンブルを発表。
- 2020 モスキーノ、2020-21秋冬コレクションでアントワネットに想を得たドレスを発表。
アンドレア・グロッシ、イェール国際ファッションフェスティバルのファイナリストに。
- 2021 アーデム、2022春夏コレクションで18世紀のファッションを引用したドレスを発表。
- 2025 ヴァレンティノ、2025春オートクチュールコレクションでアントワネットのファッションに想を得たドレスを発表。



▲... p.12



▲... p.13



▲... p.16



▲... p.15

開催概要

マリー・ アントワネット・ スタイル

Marie Antoinette Style

会 期 | 2026年8月1日(土)～11月23日(月・祝)

会 場 | 横浜美術館

開館時間 | 10時～18時

(11月21日・22日は20時まで)

*入館は閉館の30分前まで

休 館 日 | 木曜日 (8月13日、9月24日、11月19日は開館)

主 催 | 横浜美術館、ヴィクトリア&アルバート博物館、
読売新聞社、日本テレビ放送網

特別協賛 | キヤノン

協 賛 | DNP大日本印刷

後 援 | プリティッシュ・カウンシル

協 力 | 日本航空、ヤマト運輸、みなとみらい線

Dates | August 1 (Sat.) – November 23 (Mon.), 2026

Venue | Yokohama Museum of Art

Open Hours | 10:00 – 18:00

(10:00 – 20:00 on November 21 and 22)

*Admission until 30 minutes before closing.

Closed | Thursdays

(Except August 13, September 24, November 19)

Organized by | Yokohama Museum of Art,
Victoria and Albert Museum,
The Yomiuri Shimbun,
Nippon Television Network Corporation

Special Sponsor | Canon

Sponsor | Dai Nippon Printing Co., Ltd. (DNP)

Supported by | British Council

Cooperation with | Japan Airlines Co., Ltd.,
YAMATO TRANSPORT CO., LTD.,
Minatomirai Line

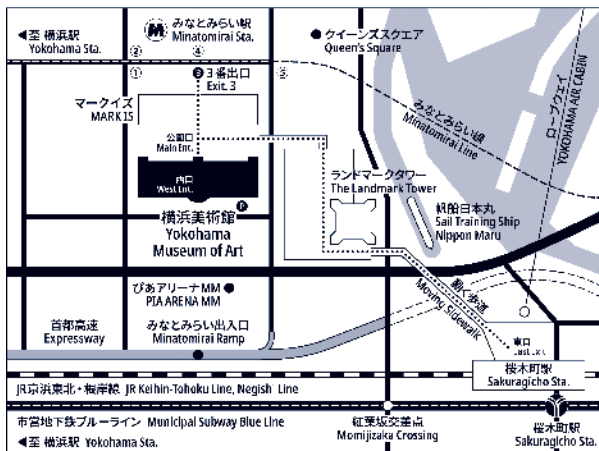
展覧会公式サイト | <https://www.marie2026.jp>

公式X・Instagram | @mariestyle2026

お問い合わせ | 050-5541-8600 (ハローダイヤル)

Official Website | <https://www.marie2026.jp/en/>

Hello Dial | 050-5541-8600



横浜美術館 YOKOHAMA MUSEUM OF ART

- みなとみらい線(東急東横線直通)「みなとみらい」駅(3番出口)から、マークイズみなとみらい(グランドギャラリー)経由徒歩3分
- JR(京浜東北・根岸線)・横浜市営地下鉄「桜木町」駅から(動く歩道)を利用、徒歩10分
- 駐車場(10時～21時、収容台数157台):最初の90分は500円、以降30分ごとに250円

〒220-0012

神奈川県横浜市西区みなとみらい3-4-1
3-4-1, Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama

[表紙]コートドレスのマリー・アントワネット
フランソワ・ユベール・ドルーエ(画) 1773年 ヴィクトリア&アルバート博物館蔵
© Victoria and Albert Museum, London

Monogram: Kellenberger-White

Created by the V&A – touring the world



横浜美術館
YOKOHAMA
MUSEUM OF ART

読売新聞

Canon

0テレ
NIPPON TV

V&A

チケット

観覧料(税込)

	前売券	当日券
一般	2,300円	2,500円
大学生	1,400円	1,600円
中学・高校生	800円	1,000円

- *小学生以下は無料。
- *障がい者手帳をお持ちの方と介護の方(1名)は無料(ミライロID可)。
- *学生・生徒の方は当日会場で学生証・生徒手帳等をご提示ください。
- *9月3日(木)は大学生のための無料観覧日「キャンオン・ミュージアム・キャンパス」(申し込み不要。学生証をご持参ください)。「大学生」は大学院生、短期大学生、専門学校生、高等専門学校4・5年生を含みます。観覧時間など詳細は、展覧会公式サイト等でお知らせします。
- *同時開催の「横浜美術館コレクション展」も、本展のチケットで観覧当日に限りご入場いただけます。
- *会期中、一部作品の展示替えを行います。
- *チケット情報の詳細は、展覧会公式サイトをご確認ください。

スペシャルチケット

数量限定 近沢レース店オリジナルタオルハンカチ付きチケット



横浜元町のブランド「近沢レース店」のタオルハンカチ付きのチケット！
マリー・アントワネットのモノグラムMAが刺繍された、本展でしか手に入らない特別なデザイン。

販売価格 | 4,500円(税込)
販売期間 | 5月20日(水)10:00～(なくなり次第終了)
販売場所 | 美術展ナビチケットアプリ

数量限定 イニシャルMAグッズセット付きチケット



マリー・アントワネットのモノグラムMAがデザインされた紺のトートバッグと、ピンクゴールドのブローチのセット。カラーはグッズ付きチケット限定！

販売価格 | 5,700円(税込)
販売期間 | 5月20日(水)10:00～(なくなり次第終了)
販売場所 | セブンチケット

数量限定 音声ガイド付きチケット

一般当日券1枚を購入し
会場音声ガイドをレンタルするよりも
300円お得！

販売価格 | 2,900円(税込)
販売期間 | 5月20日(水)10:00～7月31日(金)23:59(なくなり次第終了)
販売場所 | セブンチケット

ポストカード付きチケット



本展キービジュアルのポストカードが付いたチケット！

販売価格 | 前売券・当日券とも通常料金+100円
販売期間 | 5月20日(水)10:00～11月23日(月・祝)16:30
販売場所 | セブンチケット

*画像はイメージです。実際の商品とは異なる場合があります。
*各チケットの詳細は展覧会公式サイトをご確認ください。

近沢レース店×マリー・アントワネット・スタイル展 オリジナルタオルハンカチ
オールドローズ ブルー / ピーチ



各2,200円(税込)

横浜元町の老舗レースブランド「近沢レース店」とのコラボレーションタオルハンカチです。

近沢レース店の人気シリーズ【オールドローズ】のタオルハンカチに、マリー・アントワネットのモノグラムをエレガントに刺繍しました。

横浜元町の伝統と、王妃の美意識が出会った、限定コレクションです。

青山デカーボ マリー・アントワネット・スタイル展 オリジナルクッキー缶



2,090円(税込)

マリー・アントワネットの時代の優美な装飾文化を描いた、展覧会限定のクッキー缶。宝飾や家具、ヴェルサイユ宮殿の情景をガラス絵で表現しました。

缶を開けると、ブルーまたはピンクのシャンデリアチャームがランダムで登場。中には、植物素材のみで仕上げたグルテンフリーの紅茶クッキーをお詰めしています。

ラデュレ コフレ・フィナンシェ&マドレーヌ
“マリー・アントワネット” 8個入り



4,320円(税込)

フィナンシェ2種各2個、マドレーヌ2種各2個/計8個

1862年パリで創業した老舗パティスリー、マカロン発祥のメゾン、ラデュレ。

V&Aとの特別なコラボレーションによる限定デザインのボックスに、アーモンドの香ばしさと焦がしバター風味が広がるフィナンシェ2種と、甘い香りと濃厚なフランス産発酵バターで外側はサクツ、中はしっとりとしたマドレーヌ2種を詰め合えました。

ハローキティ



大人気キャラクター「ハローキティ」とのコラボレーションも決定！商品の詳細は追って発表します。

下記の人気ブランドとのコラボも決定！コラボグッズや展覧会オリジナルグッズを多数販売予定。詳細は後日発表。



芦屋ロサブラン

Rose Blanc®



Maison de FLEUR



NINA'S
MARIE-ANTOINETTE

Fournisseur de la Cour Royale Française depuis 1672

*写真はイメージです。実際の商品とは異なる場合があります。

*各商品の在庫には限りがあります。

*転売目的での購入はご遠慮ください。

アンバサダー&音声ガイド

ファッションモデル／女優として活躍する中条あやみさんが展覧会アンバサダーに就任！
時代を超えて愛されるマリー・アントワネットの「スタイル」の魅力をご紹介します。



アンバサダー
中条あやみ(モデル／女優)

コメント

初めて彼女の存在を知ったのは子どもの頃にスクリーンでみた映画『マリー・アントワネット』でした。

当時は豪華な宮殿で欲しいものを全て手にした幸せなお姫様という憧れの存在で、舞台を観たりヴェルサイユ宮殿を訪れたりするにつれ、彼女のファッションへの執心は、本当の自分に戻るための唯一の手段(鎧)だったのかなと、彼女の魂に少し触れられた気がしました。

どの世代も虜にするマリー・アントワネットのスタイル。彼女が現代のSNSで発信したらトレンド入りしたであろう、彼女の愛した宝物を見に、ぜひ横浜にお越しください。

Profile

モデル／女優。1997年2月4日生まれ、大阪府出身。ドラマ／映画「TOKYO MER」、ドラマ「じゃあ、あんたが作ってみようよ」(共にTBS系)などの話題作に出演。フォトエッセイ「明日へのことば」(幻冬舎)を昨年発売。直近では、4月期金曜ドラマ「田鎖ブラザーズ」(TBS系)に出演。

音声ガイド

中条あやみさんが音声ガイドにも登場！音声ガイドナビゲーターの豊永利行さんと共に、マリー・アントワネットが見出し、彼女を形作った様々な「スタイル」をひも解き、その人生模様も辿ります。

マリー・アントワネットの時代の音楽、ゆかりの名曲とともにお楽しみください。

Profile

声優、俳優、シンガーソングライター。東京都出身。

10歳の時に初舞台を踏み、舞台・映画・テレビ・声優と活動の幅を広げる。

主な声優出演作品は、劇場アニメ『バルサイユのぼら』アンドレ・グランディエ役、アニメ『MAO』華紋役、『ドラゴンクエスト ダイの大冒険』ポップ役、『時光代理人』程小時／トキ役、『ユーリ!!!on ICE』勝生勇利役、『デュラララ!!』竜ヶ峰帝人役、ゲーム『Fate/Grand Order』オベロン役など。第12回「声優アワード」主演男優賞受賞。

会場レンタル版：貸出料金700円(税込) *お一人様1台

アプリ配信版(iOS/Android)「聴く美術」：販売価格800円(税込)

配信期間：2026年8月1日～会期中(予定)

【音声ガイドサービスに関するお問い合わせ】

(株)アコースティガイド・ジャパン support@acoustiguide.co.jp



音声ガイドナビゲーター
豊永利行(声優)

池田理代子による不朽の名作『ベルサイユのばら』とのコラボが決定！

男装の麗人オスカルが「近衛応援隊長」に就任し、「マリー・アントワネット・スタイル」展を応援します。今回のコラボでは、展覧会会場でのフォトスポット設置やオリジナルノベルティの配布を予定！詳細は後日、展覧会公式サイト等で発表します。

近衛応援隊長 オスカル・フランソワ・ド・ジャルジェ

コメント

アントワネットさまの展覧会が日本の横浜で開催される——胸が…胸が高鳴る知らせだ！

近衛連隊長たるこのオスカル・フランソワ、こたびの展覧会「近衛応援隊長」として、「マリー・アントワネット・スタイル」を全力で応援しよう。ああ、アントワネットさま……その美はただ華やかなだけではない。既成の価値観に縛られぬ勇気と、誰よりも自由を愛した魂の輝きなのだ。

アントワネットさまのファッションや優美な家具、そして生き方すべてを支えた気品と革新性は、時代を超えてなお人びとを魅了し続けている。その源泉を、ふたたびこの目で確かめられる……お……お!! これ以上の誉れがあろうか！

比類なきフランス王妃の「スタイル」の輝きを、その目で確かめよ！いざ、横浜へ！



「NINA'S (ニナス)」の4店舗にてコラボレーションアフタヌーンティーを提供！

王妃がフランスで過ごした場所をテーマに、各建造物を象徴する色やパーツ、ゆかりの食材やお菓子をを用い、それぞれの場所を表現しました。



「マリー・アントワネット・スタイル」展
スペシャルコラボレーションアフタヌーンティー
販売期間：2026年7月1日(水)～11月23日(月・祝)

2段(写真左)
販売店舗

- ・ル サロンド ニナス
クイーンズスクエア横浜
- ・ル サロンド ニナス
小田急百貨店新宿
- ・ニナス バリ 武蔵村山

3段(写真右)
販売店舗

- ・ル サロンド ニナス 日比谷

「ウェスティンホテル横浜」とのコラボレーションが決定！

THE WESTIN
YOKOHAMA

最上階のロビー・ラウンジにて、「マリー・アントワネット・スタイル」からのインスピレーションによるオリジナルアフタヌーンティーを期間限定でご提供します。入場券とセットになったお得なプランも販売予定。

詳細は後日、展覧会公式サイト等で発表します。

提供期間(予定)：8月1日(土)～9月30日(水)

場所：ウェスティンホテル横浜 23階 「ロビー・ラウンジ」

〒220-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい4-2-8

「馬車道十番館 横浜美術館 喫茶室」でもスペシャルメニューを提供！

